

創立15周年をお祝いして

(社)電気化学協会 会長 小 柳 俊 一

貴会がこのたび15周年を迎えられたとの由、電気化学協会の会員に代わりまして心よりお慶び申し上げます。

15歳といえばだいたい昔の元服、今でいう成人式にあたりますから、これを節目に今までの蓄積を大きく開花させ、新たな飛躍に向けた一步を踏みだされることと確信いたします。貴会誌『表面科学』の年間発行回数も創立時より季刊、6冊、10冊と快調に増え、15周年を機に月刊化に踏み切られたと承っておりますが、これも元服に通じるところがありましようか。わが国はもとより、国際レベルでも表面科学研究推進の牽引車として、ますます発展されることを切に期待しております。

いまさら申すまでもなく、貴会は私どもとご縁のたいへん深い学会だといえます。清山哲郎先生、前田正雄先生、馬場宣良先生を始めとする貴会の歴代会長は本会の重鎮でもあられ、多くの研究者が両会を活躍の場にしております。また年次大会の要旨集や、それぞれの会誌に掲載される論文・解説記事を眺めても、研究内容・研究者名ともに重なりがずいぶんあります。私どもの会がカバーする研究領域は近年かなりの広がりを見せたとはいえ、なんといっても電気化学の中核は固体表面で起きる原子・分子レベルの過程ですから、貴会会員の研究成果は本会会員にとってもきわめて有用なものです。今後とも交流をますます密にし、切磋琢磨することによって、斯界の進展に寄与できることでしょう。

昨今、学協会をとり巻く諸般の情勢にはとりわけきびしいものがあり、経費節減・会員拡大をかけ声に、体質改善を目指している団体も多いと聞いております。どんな情勢になろうとも、学協会それぞれの独自性、Identityが確立していれば、道はおのずから開けるでしょう。その面でも、お互いに今後いっそうの努力を重ねていきたいものです。